仕訳ルールの活用で『スマート取引取込』をもっと便利に使いこなす！

『スマート取引取込』を使い始めたものの、勘定科目が正しく割り当てられず、修正に時間がかかった経験はありませんか。実は、「仕訳ルール」を活用することで、修正の手間を軽減するだけでなく、監査業務全体の効率化を図ることができるようになります。今回は意外と知られていない「仕訳ルール」の活用方法と、直近のアップデート「金額条件の追加」について詳しくご紹介いたします。

細渕 敬太
Keita Hosobuchi
マーケティング本部
事業企画部
次世代プロダクト
企画課

3年半の会計事務所営業を経て、現在は給与製品の新サービス企画を担当。埼玉県出身の28歳。野球未経験ながら、阪神タイガースをこよなく愛する。一度通った道は全て記憶できるスキルを持つ。

「仕訳ルール」とは

弥生PAP会員の中でも利用が拡大している自動仕訳作成機能の『スマート取引取込』。同機能では勘定科目の推論をAIが行いますが、任意で条件設定をすることができます。それが「仕訳ルール」です。

スマート取引取込での科目の適用は図1のように、仕訳ルール→学習機能→AIの順に行われます。

仕訳ルールへの登録方法は二通りあります。一つは『弥生会計』からの登録で、作成された仕訳を修正した上で、右クリックで表示されるショートカットメニューから「スマートの仕訳ルールへ登録」をクリックする方法。もう一つは、『スマート取引取込(Web)』の「仕訳ルール設定」から登録する方法です。

それぞれの登録時の特徴は図2でご確認ください。

図1 科目適用の優先順位

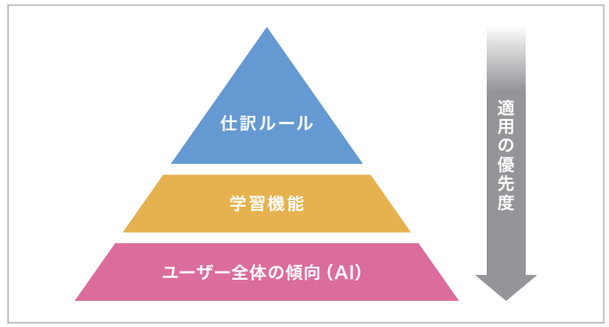

図2 仕訳ルール登録方法別の特徴

	弥生会計での登録	Web画面での登録
摘要判断	完全一致	・完全一致 ・部分一致
登録方法	仕訳から直接登録	・手入力登録 ・CSV一括登録
個別条件設定	——	・軽減税率有無指定 ・金額条件指定 NEW

ケース別「仕訳ルール」活用術

正しい仕訳ができるまで時間がかかる

事前のルール設定で精度向上

『スマート取引取込』では初回、AIの推論による科目が割り当てられるため、取込後にデータの修正をする必要があります。修正によって学習機能が働きますが、次回以降の取込から修正情報が適用されるため、運用定着まで一定期間かかります。一方で仕訳ルールは取込前から設定ができるため、初回時から正しい科目を割り当てることができます。インポート機能を使用すれば、CSVで作成したルールを一括で登録することもでき、1回設定すれば別の事業所データへの転用も可能です。

何が学習されているかわからない

科目設定の可視化

『スマート取引取込』では科目を修正すると学習機能が働きますが、過去の学習を一覧で確認はできません。しかし、「仕訳ルール」は「仕訳ルール設定」の画面で登録済ルールの確認ができます。顧問先ごとの仕訳作成の条件は属人化してしまうケースが多いですが、「仕訳ルール」に登録することで可視化できるほか、入力担当者が変更になった場合でも簡単に内容を引き継ぐことができ、品質も維持できます。

仕訳の確認に時間がかかっている

付箋機能で仕訳精度の可視化

『スマート取引取込』は、一度に多くの仕訳を作成できますが、『弥生会計』に取り込んだ後で一件ずつ確認をするのは時間がかかります。そんなときは、『弥生会計』の付箋機能をご活用ください。「仕訳ルール」に基づいて作成された仕訳には「◎」の付箋が設定されます。そのため、「◎」以外の付箋が付いた仕訳を確認すれば、自ずと確認工数も軽減できます。その場で仕訳ルール登録も行って「◎」付箋を増やしていきましょう。

一時的に科目を修正したら、学習情報が上書きされてしまった

ルール設定で、意図的に学習させない運用

同じ摘要でも、品目によって勘定科目が変わるケースがあると思います。例えば、「A商店」という摘要があった場合、普段は消耗品費で処理を行うのに、イレギュラーで別の品目を購入したため、福利厚生費に科目を修正したとします。すると、学習機能は最後に修正した科目を覚えるため、次回は福利厚生費が割り当てられます。しかし、仕訳ルールで初めから消耗品費を設定すれば、科目を変更しても、次回以降に反映されず、一時的な修正として処理することができます。

新アップデート「金額条件の追加」

2021年12月、「仕訳ルール」に「金額条件」が追加されました。これにより、金額の範囲を指定して、勘定科目の割り当てができるようになります。設定自体は『スマート取引取込(Web)』の「仕訳ルール設定」画面から行えます(図3)。

図3 仕訳ルール設定画面（スマート取引取込Web）

「金額条件」はこんなときにおすすめ

「金額条件」は、摘要が同じでも取引によって科目が異なる際に活用いただけます。例えば、「会議費」と「接待交際費」は、金額で判断が分かれるケースも多いので利用しやすいのではないでしょうか。また、借入金の返済やリース料など部署ごとに複数利用している場合は、金額条件で補助科目単位の指定が可能になります。その他にも「備品」「消耗品費」「支払手数料」などの切り分けにもお使いいただけます。

『スマート取引取込』は事務所の記帳代行業務効率化をご支援するために定期的に機能アップデートをしております。今回の「金額条件追加」も、摘要だけでは読み取れない取引内容を可視化するために搭載した機能です。

各顧問先に応じた仕訳精度向上には、「仕訳ルール」の定期的な追加、更新が近道です。ご利用いただくとすぐに効果を実感いただけると思いますので、ぜひお試しください。

弥生はこれからも、弥生PAP会員の皆様と顧問先の業務負担を軽減するため、機能改善、サービスの改良に努めてまいります。

機能アップデートの詳細はWebページでもご確認いただけます
https://www.yayoi-kk.co.jp/rd/yn4782（要ログイン）